



大銀杏

根



城



南部師行公

2020年度 第8号

八戸市立根城中学校 令和2年11月24日発行

跳ね返せ 逆境を 仲間と繋いだ 心のハーモニー♪

校長 木村 一夫

11月6日、校内合唱コンクールが行われました。ポスターは3年生の森田璃子さんが制作し、スローガンは3年生の齊藤理功君の「**繋 ~ 未来に響く 根城の歌声**」が選出されました。コンクール開催までに3つの大きく高い壁がありました。

- ①当初の7月から10月へ、10月から11月へと再延期したものの、果たして開催できるのか。
- ②初めて体育館での開催となるが、音の響きが著しく低下しないか。生徒の座席配置はどうするか。
- ③青木先生の代わりに合唱指導してくれる先生は見つかるのか。

①と②は学校の判断と工夫で何とか乗り越えられますが、③が最大の難関でした。9月下旬から佐藤久美子先生が授業を担当して下さることになったため、開催を決めました。佐藤先生は10年間の本校勤務経験があります。当初の授業予定は、水曜を除く平日の午前中ということでしたが、生徒たちの意欲と真剣さ、そして先生自身の「少しでもいい歌声づくりのために1時間でも多く授業をしたい」との希望から、水曜も授業を入れた他にも、午後のリハーサルにも付いてコメントやアドバイスをくださり、コンクール開催に向けた雰囲気は着実に高まってきていました。

開催を決めたものの、今度は3つの悩みが生じました。

- ①来賓及び保護者の来校はどうするか。
- ②当日の演奏は課題曲と自由曲の両方にするか、どちらか1曲にするか。
- ③密を避けるために学年ごとに生徒の入れ替えを行うかどうか。

悩んだ末、次のような結論に達しました。

- ①事前に来校者を把握したうえで、生徒・教職員・来賓・保護者（家族を含む）が一堂に会して鑑賞することにより、コンクールに懸ける生徒の熱い想いを感じ感動を共有してほしい。
- ②コンクールである以上、同じ条件で勝負する課題曲と学級で選んだ自由曲の2曲をもとに審査したい。また、2曲にすることにより、指揮や伴奏で活躍できる生徒を増やしたい。限られた授業時数の中で2曲を扱うことは、指導者にとっても生徒にとっても負担増にはなるが、学級担任によるサポートはそれを乗り越えられるだけの意欲を生み出すだろうし、指導者の力量はお墨付きである。曲数を減らしてコンクールの時間短縮を図ることよりも、生徒の活動場面を確保し、互いに聴き合い比べ合う方が、それまでの取組の振り返りに役立つ。

③合唱コンクールは他学年の演奏を聴くことにも大きな意義がある。1年生も2年生も一つ上の学年の歌声を聴くことにより感動と翌年への意欲が高まる。3年生は自分たちの歌声で1・2年生の感動と向上意欲を生み出してほしい。

当日は開場30分以上前から玄関前に列ができ、開場直前には校門までの列ができていました。多くの方々にご来校いただきました。生徒たちの歌声と態度は立派でした。どの学年においても僅差ながら金銀銅を付けざるを得ない演奏が多く、実に審査員泣かせのコンクールになりました。真剣に取り組んだからこそ喜びや悔しさが生まれました。

全校生徒の感想に目を通しました。1回しか読まないのにもかかわらず記憶に残る内容ばかりでした。思いつくままに紹介します。

- ☆コンクールを通して、気の緩みや妥協はあってはいけないと実感しました。
- ☆3年生の合唱は鳥肌が立ち、このまま鳥になるのではと思うくらい感動しました。
- ☆〇〇君や〇〇さんの陰での努力やリーダーシップはすばらしく感謝しています。
- ☆このメンバーで歌えてよかったと心から思います。
- ☆金賞は逃したけれど、自分の中では我がクラスが金賞だと胸を張れます。
- ☆今年は合唱コンクールはないと思っていたので、開催してくれたことが嬉しい。
- ☆考えの違う人が一つになって取り組むことの難しさと楽しさを知りました。
- ☆一つ上の学年の合唱を目標にして来年はもっといい歌声をつくりたい。
- ☆コンクールを通して、クラスや根城中の団結力が高まったと思います。
- ☆コロナ禍を通して、普通に過ごすことへの“感謝”を忘れてはいけないと思った。
- ☆今年のコンクールは二度と味わえない特別なものだったと思います。
- ☆今年はサプライズがあったので、忘れられないコンクールになりました。

コンクール実施については多くの懸念材料はありましたが、我々教職員がコンクールを通して実感してほしいと望んだ以上のものを生徒はつかんだように思います。生徒たちの前向きな姿勢を讃えるとともに、激戦の審査に当たられた先生方、励まし応援して下さったご家族、そして、予定時間超過にもかかわらず最後までご覧くださった来賓の皆様へ感謝申し上げます。これもまた、みんなで創り上げた行事となりました。

今年のコンクールを支え、成功の立役者となったのは、佐藤久美子先生です。窮地に陥った本校に現れた“救世主”でした。小学校での吹奏楽指導をはじめとするハードスケジュールを調整し、授業での合唱指導、昼休みの指揮指導、リハーサルでの鼓舞激励等、ほぼ休憩なしで献身的にご支援くださいました。コンクールの閉会式後にはサプライズで「感謝を伝える会」を行い、特にお世話になった3年生の代表から感謝の言葉と花束が贈られました。記憶に残る思い出深いコンクールになりました。

